

管理運営評価シート(令和7年度)

施設名称	イヨボヤ会館・イヨボヤ会館駐車場・イヨボヤ会館 公衆便所・三面川休憩所・村上市鮭公園	評価対象年度	令和 7 年度
指定管理者名	公益財団法人イヨボヤの里開発公社	所管課	林業水産創造 課
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)	評価者(課長)	伊藤 幸夫

1 令和7年度の実績

(1)事業実績

利用実績	入館者数40,050人、(有料38,564人、減免1,486人)
サービス向上の 取組	<ul style="list-style-type: none">・来館者へは、笑顔を持って親切丁寧な接遇を実践した。・当会館と併せ、「三の丸スポット」の紹介を行い、「おしゃぎり会館」等への入館を勧め、セット券の売上げ増加に努めた。当会館から「三の丸スポット」への案内図を配布し、分かりやすく経路案内を行っている。その他、村上の見所等についても、丁寧に案内を行っている。・テレビ、ラジオ、雑誌等の取材には、積極的に対応し、鮭文化を中心に当会館及び村上市のPRを行った。・村上の鮭文化や歴史、鮭をはじめとする淡水魚の生態等を、分かりやすく展示している。また、解説等を行い、より理解を深めていただいた。展示魚については、良好な状態で観察できるよう、十分な飼育管理を行っている。・三面川に遡上する鮭の数が激減したが、三面川鮭産漁業協同組合の協力により三面川に遡上した鮭を展示することができた。また、荒川漁業協同組合にも協力をいただき、荒川に遡上した鮭を展示し、鮭遡上シーズンの間、来館者に対して、数は少ないながらも、村上に帰ってきた鮭の観察を提供することができた。・館内での出来事等を中心に、SNSを活用し情報発信を実施した。

(2)管理経費

(単位:千円)

区分		前々年度 (R5年度)	前年度 (R6年度)	当該年度 (R7年度)	合計	備考
収入	指定管理料	56,173	63,010	66,093	185,276	基本協定額: 316,708 千円
	利用料金				0	
	事業収入				0	
	自主事業収入	1,528	2,013	2,043	5,584	
	その他				0	
	収入合計 ①	57,701	65,023	68,136	190,860	
支出	人件費	19,504	25,140	27,005	71,649	
	福利厚生費	2,862	3,673	4,251	10,786	
	事務費	3,406	3,029	3,037	9,472	
	管理費	28,038	28,310	28,705	85,053	
	水道光熱費	12,675	13,578	13,275	39,528	
	修繕料	4,910	3,015	3,064	10,989	
	使用料・リース料	947	1,099	969	3,015	
	手数料・保険料	614	1,131	1,105	2,850	
	委託料	8,892	9,487	10,292	28,671	
	事業費	120	150	175	445	
	自主事業経費	992	1,039	1,129	3,160	
	その他	2,244	2,894	3,092	8,230	
	支出合計 ②	57,166	64,235	67,394	188,795	
収支差額(①－②)		535	788	742	2,065	

2 共通評価項目

(記入者)自己評価…指定管理者 所管評価…施設担当課

評価項目	判断基準	自己評価	所管評価	備考(所管評価) (◎、△、×のときは評価内容、その他 特記事項があれば記入)
公の施設の平等な利用の確保	事業内容等は、一部の市民や団体に対して、不当に利用を制限又は優遇するものではない。	○	○	
	社会的弱者の公平利用について、配慮されている。	○	◎	障害者等の来館者には、より安全に見学できるよう配慮されている。
情報公開、個人情報保護の取組	情報公開、個人情報保護に係る措置が適切に講じられている。(書類の保管、社員への周知等)	○	○	
	情報公開、個人情報保護について、内部規約の整備や実施基準等が考慮されている。	○	○	
従業員の労働条件など法令遵守による管理運営	適切な労働条件や運営体制が確保されている。	○	○	
	関係する法律、条例等を理解し遵守している。	○	○	
業務仕様書の水準を満たしたサービスの提供	公の施設の管理運営にふさわしい理念やコンプライアンスの取組等、透明性の高い運営を行っている。	○	○	
	施設の設置目的を理解し、仕様書に指定された業務を実施している。	○	○	
創意工夫によるサービス向上と自主的な経営努力	サービス向上のための取組を行っている。	○	○	
	利用者の要望や意見を把握し、その対応方法が明確になっている。	○	○	
	施設やサービスの利用促進・拡大を図るため、適切な広報や的確な手法を行っている。	○	○	
	自主事業の実施方針及び内容は施設の設置目的を果たすものとなっており、効果的に実施されている。	○	○	
経営努力による経費縮減の取組	安全な管理体制及び事業実施に対して、適切な収支決算となっている。	○	○	
	縮減の取組がサービス低下につながらず、バランスが図られた事業内容となっている。	○	○	
	管理効率化等による余剰分を新たなサービス展開による施設効用の拡大につなげている。	○	○	
	新たな収入の創出等、経営の安定化に向けた独自の取組を行っている。	○	○	
適正な人員配置や人材育成の取組	適切な人員や有資格者の配置、勤務体制、労働管理となっている。	○	○	公社管理の各施設で、イベント等が開催される場合は、事前の連絡体制により、応援勤務を行いスムーズに事業運営を行っている。
	人材育成に対する積極的な取組が講じられており、職員研修等の人材育成に取り組んでいる。	○	○	
安定的な財務基盤による管理運営	指定期間で安定的な管理運営を行う財務基盤を有している。	◎	◎	安定した財務基盤を有し、指定期間における管理運営を実施している。
事件・事故や利用者への対応	苦情、事故、トラブルを防止するための具体策や対処方法は適切である。	○	○	
	利用者の安全確保と緊急時の対応・体制は適切に整備されている。	○	○	
地域貢献への取組	市内業者の活用や地元雇用の促進など、地域振興に寄与する事業内容である。	◎	◎	事業にあたり市内業者を積極的に活用しており、地域の振興に貢献している。
	地域と連携した事業の実施や、地域活動への参加等による地域貢献に取り組んでいる。	◎	◎	村上市観光協会、三面川鮭産漁業協同組合等、各種団体と連携し事業に取り組んでいる。

◎:協定等の内容を超える水準で業務を履行している ○:協定等の内容どおり業務を履行しており適正

△:協定等の内容に対し、一部不履行がある ×:協定等の内容に不履行があり改善の必要がある ー:該当なし

3 業務実施上の課題(指定管理者が記入)

(1)指定管理業務実施上の課題

- ・令和7年度は前年度に比べると、入館者数及び入館料収入額が上回った結果となった。更にイヨボや会館の魅力を高め、継続的に入館者の増加を図ることが課題である。
- ・本館からミニふ化場への移動には段差があり、足等に障害がある方にとって不便な状態となっている。また、車椅子の入館者については、職員によって車椅子を車椅子置場から移動させて対応を行っている。構造上の関係により、修繕工事が困難な状況であることが課題である。
- ・バックヤードとなる倉庫や展示魚・稚魚等を育てる作業スペースが不足している。
- ・隣接していた民間の売店兼食堂が閉店したことから、お客様にとっての利便性が従前より低下しているものと考えられる。また、現状は景観面及び防犯面においても望ましい状態とは言い難く、適切な受入先の早期確保が望まれる。

(2)課題解決に向けた取組

- ・入館者の増加については、エサやり体験(ニジマス・コイ)や釣り体験等、魚に興味を持っていただけるよう実施した。また、企画展『今年はへび年「スネークヘッド展」』や、館内で演奏会(大正琴・文化箏の演奏会)を開催し、入館の機会となるように努めた。
- ・SNSを活用し、誘客促進に努めた。
- ・鮭のミニふ化場へ向かう通路に段差がありバリアフリー化されておらず、課題解決には改修方法等の検討が必要である。現状としては、必要に応じ職員が車椅子置場から移動させて対応を行っている。
- ・館内の整理整頓を行い、バックヤードや倉庫の確保に努めている。しかし、スペースがほとんどない状態である。展示魚等を保管できるバックヤード等があれば、更に充実した展示が行えるものとする。
- ・民間の売店兼食堂が閉店したことから、自動販売機を2台、本館脇に設置している。また、土産品の拡大も検討している。

(3)その他

①利用者からの主な意見や苦情、対応策

「サーモンシアター」では、村上の四季をととして鮭とのつながりをわかりやすく解説する「三面川 鮭の物語」(DVD)を上映している。入館者より非常に好評を得ている一方、平成12年に映像を作成後、現在まで同一のものを上映しており、映像作品自体が古くなっているため、入館者よりご指摘をいただいている。

②その他

4 全体的な評価

(1)指定管理者の評価

入館者数については、令和元年度以来の40,000人を超える結果となった。有料入館者は38,564人で前年度比800人の増で、継続して前年度実績を上回ることができた。今後も、更なる入館者数の増加及び入館料の増収に努めていく。

(2)施設所管課の評価

入館者への丁寧な接遇及びメディアの取材対応やSNSなど多方面の情報発信に努めている。また、提携施設のセット入館券の宣伝にも積極的に取り組んでいる。
開館から40年を経過し全体的に老朽化が進行している中、新たな魅力づくりに取り組み、前年度比で入館者数を伸ばしている。遊上数減少で鮭の展示が十分に行えない時期があったものの、漁協の協力を得て個体を確保したり、他の展示でカバーしたりと工夫している。

(3)次年度の管理運営に対する指導事項等(施設所管課)

アンケート等で観光のニーズをリサーチして、情報発信の工夫で新規来館者を掘り起こし、更に来館者を増やしていただきたい。
施設が全体的に老朽化が進行しているが、必要最小限を心掛けながら引き続き効率的な管理運営に努めていただきたい。
修繕、更新などの長期的な見通しを立てるため、優先順位を精査しながら館内各設備の状態確認を行っていただきたい。
開館日、開館時間及び入館料等の改定を令和8年7月から実施するので、スムーズに移行できるよう各方面の準備を進めていただきたい。